

ビーグリー(東 1:3981)

バリュエーション判断

中立 → **弱気※**

(2021.8.16)

目標株価

1,500 円 → **1,500 円**

取材:2021年11月18日

担当:澤田 遼太郎

【連結優先】 (百万円、%、円:Q/四半期、会/会社計画、予/エース経済研究所予想)

決算期	売上高	伸率	営業利益	伸率	経常利益	伸率	当期利益	伸率	EPS	配当
2021/12 3Q	14,107	69	946	27	840	31	338	10	57	-
2019/12	10,401	13	817	58	812	64	496	90	84	0.0
2020/12	12,378	19	1,136	39	990	22	470	-5	80	0.0
2021/12 会	19,682	59	1,350	19	1,210	22	524	11	85	0.0
2021/12 予	19,000	53	1,300	14	1,160	17	500	6	81	0.0
2022/12 予	20,800	9	1,490	15	1,490	28	920	84	149	0.0

※2020/12から連結決算へ移行、伸び率は単純比較

【セグメント情報】	21/12期 3Q	【PER】	【財務指標】	21/9末
プラットフォームセグメント	67%	19/12 21	BPS 897円	株価(11/18終値) 1,795円
コンテンツセグメント	33%	20/12 23	純資産 56億円	売買単位 100株
		21/12予 22	総資産 195億円	発行株数 6.2百万株
		22/12予 12	時価総額 111億円	PBR 2.00倍

<注目ポイント>

—電子書籍サイト「まんが王国」を展開、㈱ぶんか社を買収し、出版事業へ進出—

- ① 2021年12月期第3Qは、売上高141億円(前年同期比+69%)、営業利益9.5億円(同+27%)、経常利益8.4億円(同+31%)、当期利益3.4億円(同+10%)となった。まんが王国はお得感戦略により、ユーザー数とポイント消費がともに伸長したほか、前期4Qより連結したぶんか社グループの寄与もあり、増収増益となった。
- ② 会社通期計画に対する進捗率は売上高72%、営業利益70%であり、達成はやや難しい状況にあると見ている。主にスマートフォンゲームの不調が下振れに繋がった。エース経済研究所では売上高未達の公算が高いと見ていたが、今回の進捗を受けて、利益についても計画をやや下回る予想とした。
- ③ プラットフォームセグメント(まんが王国、ゲーム)売上高は94.0億円、営業損失0.1億円となった。積極的な広告宣伝活動の実施が増収に寄与した一方で、スマートフォンゲームの赤字が響いた。ゲームのコスト圧縮などにより、3Q単体では黒字化した。ゲームは4Qには黒字化する見通しであると示唆があった。
- ④ 日本テレビ放送網によるTOB及び、第三者割当増資が発表された。これにより25%の筆頭株主となる見通し。両社の連携を深め、日テレのアニメやドラマの制作力および発信力×ビーグリーのコンテンツ創作のシナジーを創出する狙い。買付価格は1株1900円。

目標株価1500円、バリュエーション判断は弱気へ引き下げる

DCF法に基づく再計算の結果、目標株価1500円を据え置くが、TOBの発表を受けて株価が目標株価を大きく上回っているためバリュエーション判断は中立→弱気※へ引き下げる。

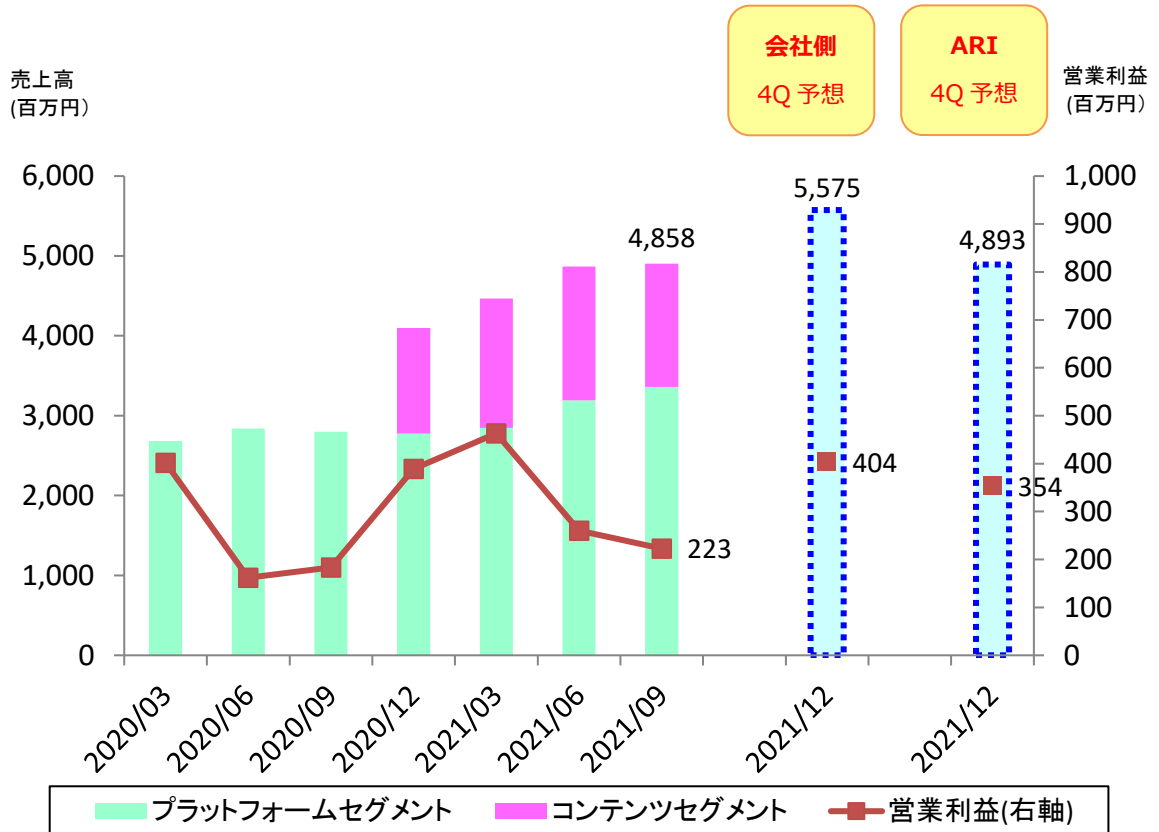
日本テレビのTOBにより、期限の12月23日まで株価は買付価格1900円へサヤ寄せすると見ているが、その後は改めて業績の下振れリスクが意識される可能性が高いと考えている。このような局面の変化が予想されるため、弱気に※をつけている。

◇セグメント売上高と営業利益の推移 (ARI 作成)

☆4Qのポイント (ARI 予想)

- ① まんが王国：4Qは減少する季節性
- ② ゲーム事業：イベントが一巡
無職転生アニメ2期の寄与は限定的

(※通期予想から差引)



《アナリストによる宣言》

私、澤田遼太郎は本調査資料に表明された見解が、対象企業と証券に対する私個人の見解を正確に反映していることをここに証明します。

また、私は本調査資料で特定の見解を表明することに対する直接的または間接的な報酬は、過去、現在共に得ておらず、将来においても得ないことを証明します。

《利益相反に関する開示事項》

- エース証券株式会社(以下、エース証券)及びグループ会社は、本資料に掲載された企業の売買あるいは当企業に対し、引受、その他のサービスを提供する場合があります。
- 株式会社エース経済研究所(以下、ARI)は、エース証券との契約に基づき、エース証券への資料提供を一定期間、継続的に行うことに対し包括的な対価をエース証券から得ておりますが、本資料に対して個別に対価を得ているものではありません。
- また、銘柄選定も ARI 独自の判断で行っており、エース証券を含む第三者からの銘柄の指定は一切受けておりません。
- 執筆担当者、ARI と本資料の対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等: エース証券株式会社 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号

加入協会: 日本証券業協会

指定紛争解決機関: 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

■手数料等及びリスクについて

●株式の売買には、約定代金に対して最大1.265%の手数料(約定代金が100万円以下の場合、最低手数料2,750円)(税込み)が必要となります。●外国株式(中国株を除く)の取引には、国内の取引所金融商品市場における外国株券の売買等のほか、外国金融商品市場等における委託取引と国内店頭取引の2通りの方法があり、当該取引には、所定の手数料等(委託取引の場合は約定代金に対して最大11.0%(75,000円以下の場合・税込)の委託手数料及びその他現地手数料等、国内店頭取引の場合は所定の手数料相当額、等)をご負担いただく場合があります。●株式は、株価の変動により、損失を生じるおそれがあります。●上場有価証券等書面の内容をよくお読みください。

●外国株式は、為替相場の変動等により、損失を生じるおそれがあります。●非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債)を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。●債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。●外国債券は、為替相場の変動等により損失を生じるおそれがあります。●商品毎(投信・外債含む)に手数料等及びリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客様向け資料をよくお読みください。

エース証券及びARI 免責事項等

- **当資料により株式・債券・その他金融商品(投信・外債含む)等の勧誘を行うことがあります。**本資料で言及した銘柄や投資戦略は、投資に関するご経験や知識、財産の状況及び投資目的が異なるすべてのお客様に、一律に適合するとは限りません。また、株式・債券等の有価証券の投資には、「手数料等及びリスクについて」に記載のとおり、損失を生じるおそれがあります。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断で行っていただきますようお願い致します。
 - 本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて ARI が作成し、エース証券(以下、当社)がお客様にご提供いたしますが、当社及び ARI は、ARI が基にした情報及びそれに基づく要約または見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。本資料に記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更することがあります。
 - 本資料を利用した結果、お客様に何らかの損害が発生したとしても、当社及び ARI は、何らの責任を負うものではありません。
- ※(著作権等)・・・本資料に関する一切の知的財産権は、原則として ARI に帰属します。電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、本資料の無断転用、複製等を行わないようお願い致します。
- ※ 尚、出所記載なき資料は各種資料より ARI 作成。